

30歳前後 親世代も必須アイテム

スマートフォンを使う1歳児が7割以上というデータは、育児支援サイト「ママスタジアム」を運営するインタースペース（東京）の1～2月調査で浮かび上がった。保護者の意識も調べており、一定数の母親が「視力が悪くなる」「子どもだけで使うのはよくない」と回答。幼児の利用に懸念も抱く。

総務省によると、スマホの世帯普及率は2013年末で62.6%と、10年の9.7%からうなぎ上り。世代別では20、30代の利用率が群を抜き、「ガラケー」と呼ばれる従来の携帯電話を大きく上回っている。

特に30歳前後は、携帯電話が普及し始めた2000年ごろに中高生だった世代だ。ICTの進化とともに

育ち、スマホやタブレット端末は必須アイテム。幼児との関係に注目する研究者らは「子育てニューエイジ」と名付けている。

大人になって情報端末を手にした上の世代とも、本格的な情報モラル教育を受け始めた下の世代とも異なる「ニューエイジ」は、その危うさを学ぶ機会や問題意識に乏しいとの指摘も。人によっては野放図な使い方も懸念される。

ネット事情に詳しい熊本市立総合ビジネス専門学校の桑崎剛教頭は、利用者の超低年齢化も念頭に、「スマホやタブレットは既に日常生活に浸透した。排除より、いかに賢く付き合っていくかという姿勢で考えるべきだ」と今後の方向性を提言している。